

知ってるようで意外と知らない予算の使徒?と現状!!

市民一人当たりの使い道はどうなってるの!?
予算額2,771億円は、一人当たり(約46万円)です。

- 子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実に

約 21万9千円



- 教育の振興に

約 2万9千円



- 消防・救急に

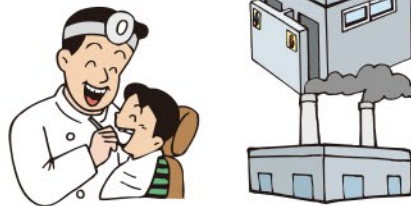
約 1万1千円



具体的な使い道は!?

- 環境や衛生の向上のために

約 4万2千円



- 道路や公園、住宅などの整備に

約 4万9千円



- 商業・観光・農林水産業の振興に

約 2万1千円

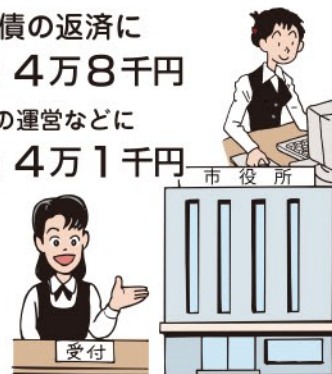


- 市債の返済に

約 4万8千円

- 市の運営などに

約 4万1千円



米山たいすけ議会活動報告

これからも変わらぬ『熱い心と行動力』で市民の皆様によりよい生活の実現を目指し、毎日を全力投球で力の限り頑張ります。今後とも、たくさんのご要望やご意見を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度は観光産業企業委員会の委員長を務めさせていただきました。初めての委員長職でしたが、委員会運営や各種行事において多くの経験を積むことができました。又、第三回定例会において個人質疑に登壇し、市立高等学校の定員割れ問題等や指定緊急避難場所と防災行政無線の見直し、それぞれの再開発事業に関連する取組みをどのように観光行政に生かしていくのか等について質疑し、それぞれの問題を明らかにしたうえで、提案・要望をさせていただきました。

南アフリカラグビー代表へ黒豚贈呈
(歓迎式典：天文館公園)



令和元年第三回鹿児島市議会定例会での発言の要旨

(小項目は一部省略して掲載しております)

1. 学校行政について

- (1) 鹿児島市立高等学校(市立三校)の現状について
- (2) 学校における働き方改革について
- (3) 出校日について

2. 安心安全なまちづくりについて

- (1) 指定緊急避難場所(指定避難所を兼ねる)について
- (2) 防災行政無線について

3. 在宅医療や介護における支援体制について

4. 千日1・4番街区市街地再開発事業に関して

- (1) 当初計画完成予定から現時点の完成予定までの変化とその理由
- (2) 工事期間中のにぎわい創出への取組み
- (3) 観光客に向けた工事期間中における対策を

5. 中央町19・20番街区市街地再開発事業関連について

- (2) 再開発によってどのような効果を期待するか
- (3) 周辺にあるかごまふるさと屋台村の利用状況
- (4) かごまふるさと屋台村は本市の観光にどのような影響、効果があったか
- (5) かごまふるさと屋台村のような場の必要性



1.(1)については、鹿児島市立三校のうち鹿児島商業高校と鹿児島女子高校の長年に渡る募集定員割れの現状を指摘し、現代社会のニーズへの対応や生徒や保護者の要望、通学の利便性、抜本的な教育改革等により伝統ある市立三校を活性化・存続していただくよう要望しました。

2.(1)について、以前から見直すべきと指摘していた指定緊急避難場所。昨年(令和元年)6月からの大雨により、安全が担保されない避難場所が明らかになりました。災害は併用して起きることも勘案し、避難場所の見直しの検討を再度要望しました。2.(2)について、各世帯を調査した結果、ほとんどの市民が防災行政無線による放送が聞こえていない状況が判明。現在の防災無線では、迅速かつ確実な防災情報等の伝達が図られない事を指摘し、新たな施策を提案しました。⇒早速、令和2年度より安価で高性能な防災ラジオの販売が開始されます。

4.(2)(3)については、再開発の完成が当初計画より遅れ、かごしま国体開催の際、他都市からの選手団・応援団、観光客等に新しくなった天文館をお披露目できない状況が明らかに。しかしながら、ピンチをチャンスにという発想で工事期間中のにぎわい創出を工夫することで、天文館を再度訪れたくなるような仕掛けづくりを各局が一丸となって取り組むよう要望しました。

5.(3)(4)(5)について、県内外、海外から年間約50万人の利用客があった『かごまふるさと屋台村』が令和2年12月末で閉鎖になることを紹介。これまで本市の観光産業にどのような影響をもたらしたのか、必要性についても当局の見解を伺い、多くの観光客に喜ばれ食の魅力の発信や観光消費額の増等、観光振興を図るうえで果たす役割が大きいということを明らかにしていただきました。今後、観光行政に対し民間活力を生かした対応や検討されることを要望し、かごまふるさと屋台村のように市民や観光客が楽しめるような場が構築されることを期待しています。